

山上の廃虚 観光資源に

20年以上前に閉鎖 旧摩耶観光ホテル

神戸市灘区の摩耶山中で昭和初期に完成し、平成になって20年以上放置されてきた旧「摩耶観光ホテル」の外観が、今年12月ごろからハイキングイベントで近くから見学できる見通しとなった。現在は立ち入り禁止の柵が設けられ、生い茂る樹木などで遠くからしか見えないが、廃虚マニアらの間で人気の存在に。地元住民らが歴史遺産として再評価し、摩耶山の活性化につなげようとしている。

(田中靖浩)



現在の摩耶観光ホテル跡。周囲は草木が生い茂り、建物全体を見ることは難しい。いずれも神戸市灘区(日本サービス社の許可を得て撮影)

「軍艦ホテル」見学ツアー企画

昭和初期のホテル外観。せり出した部分が客船のブリッジを思わせる(灘百選の会提供)



旧「摩耶観光ホテル」は、摩耶ケーブル(現まやビューライン)の運営会社が摩耶山温泉ホテル(摩耶ホテルとも)として1929(昭和4)年に開業。斜面を利用した鉄筋4階建てで阪神間を一望でき、曲面のある外壁や丸窓など意匠を凝らした造りから「軍艦ホテル」とも呼ばれてきた。戦後しばらくの休止を経て、5階建てに改



ガラスが割れた丸窓越しに荒れた内部がうかがえる

築し61年に再開。経営難から学生向けの合宿所となった後、93年に閉鎖された。草深い山中で朽ちる建物のたたずまいが独特の雰囲気を生み、映画の撮影や朗読会など、表現の舞台として度々利用されている。

同会は、週末などに定期的に催すハイキングイベントで見学できるように想定する。山中に残る近代の遺構群と併せてガイドが案内。市から補助を受け、今年秋から見学用通路の整備やパンフレットの作成などに乗り出す。詳細が決まり次第、同会のホームページなどで参加者を募る予定。建物については専門家の調査で「本体に大きな問題はない」とさ

長崎・軍艦島が火付け役

廃虚が公的に公開されている国内唯一の事例とみられるのが、長崎市の「軍艦島」だ。元島民らが再評価を後押しし、公開開始の2009年度に5万5千人だった観光客は、15年に「明治日本の産業革命遺産」の一環として

世界文化遺産に登録されたことで、28万7千人へと急増した。江戸時代に石炭が見つかり、明治以降に大規模開発。周囲1・2キロの小島に50棟以上の鉄筋住宅が建てられ、最盛期の1960年ごろには5千人以上が住

んだものの、エネルギー政策の転換で74年に閉鎖した。近代の産業遺産を再評価する動きが活発化する中で、元島民らが「軍艦島を世界遺産にする会」を立ち上げて活動。登録が必要になるかもしれない」とする。

禁止されていた島が人気の観光地となったことについて、長崎市観光政策課は「廃虚としてではなく、日本の近代化に果たした島の歴史的役割に着目した」と指摘。一方で「全ての建物を保存するには膨大な費用が必要。(世界遺産の構成要素としての)外観を形成しているものに限って保存するなど、将来的には選択が必要になるかもしれない」とする。

